

受講番号 19031 学校名 高知西高等学校 氏名 半田 愛子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 高校1年生 生徒数 27名
 科目名 英語I 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 World Treck English Course I

クラスの様子・特徴

普通科1年生、男子11人女子16人のクラスである。学習意欲が高い。全員が元気に声を出して音読ができ、また、静かに話を聞くこともできるメリハリのあるクラスである。授業中に疑問を持った点をその授業内に質問する生徒もあり、雰囲気が良い。

問題の確定

内容理解に必要な語彙・文法力の不足、英語を意味のかたまりごとに理解する習慣がついていない。

予備調査



A 授業の観察

授業に前向きに取り組む生徒が多い。音読も全員元気にできる。全体的に大人しい。ALTからの英語の質問に対して、質問の意味はわかっているのに返事をするのをためらってしまい、静かな状態が続くことがある。

B 生徒による授業評価

予習をする生徒は半分以下。授業には積極的に参加する生徒が多い。文法、発音に苦手意識を持つ生徒が特に多く、16人が英語が苦手であると意思表示をしている。授業の板書や説明がいまひとつ分りにくと思っている生徒が5名ほどいる。

C 学カデータ

英語I前期中間テスト平均点 86点
 OCI前期中間テスト平均点 70点

リサーチ・クエスト



内容理解に必要な語彙、文法を定着させるにはどうしたらいいか。

仮説・実践・検証



仮説1



実践1



検証1

生徒一人ひとりが予習ノートに新出語句や熟語だけでなく、意味のわからない単語を書き出し、自ら調べる機会を多く設定することで、語彙を増やすことができるだろう。

各自の予習ノートのみを持ち込んでも良いという条件で単語テストを実施した。

1回目平均点11点、2回目平均点13点。アンケートの結果より、ノート持込可テストに向けて意味のわからない単語を調べた生徒は22人、現在意味のわからない単語を調べるようになった生徒は20人。予習をしない生徒がほとんどであったことから考えると、予習ノートを活用し、意味のわからない単語を調べる生徒が増えたのではないと思われる。ただし、語彙の増加については今のところはっきりとした結果は出ていない。

仮説2



実践2



検証2

音読だけでなく、意味を中心に英文を理解することで、学習内容を定着させることができるだろう。

文法や構文のポイントを説明するためのプリントを配布し、意味理解を中心とする時間をとった。

アンケートの結果、文法解説や和訳練習のプリントが英文を理解するうえで役に立つと答えた生徒が26人。役に立たないと答えた生徒が1人。後期中間テストの平均点は58.9点と前期中間よりかなり下がってはいるが、授業中に英文の意味を尋ねると、以前よりもスムーズに答えが返ってくるようになってきた。

仮説3



実践3



検証3

フレーズごとの区切りを意識させることで、フレーズごとに意味を理解することができるようになり、長文読解力が身につくだろう。

まず、フレーズで区切るためのルールを説明。生徒自身でフレーズを区切り、意味を答える練習をした。その後、フレーズに区切ったワークシートを利用し、音読練習やフレーズごとに英語から日本語へ、日本語から英語へと、訳す練習を行った。また、英文をフレーズごとに左から右へ理解する練習をし、150words程度の英文を読み、内容理解の問題に答える活動を行った。

確認テストを実施した結果より正答率75%以上の生徒はフレーズを正確に区切り、意味も理解できているが、正答率50%以下の生徒はフレーズごとに区切ることができていない。アンケート結果とテスト結果より、テストの得点が高い生徒ほど正確にフレーズを区切ることができ、また、フレーズリーディングが役立つ・理解しやすいと肯定的に捉えている生徒が多い。フレーズごとに区切る練習をさらに重ねる必要があると思われる。

研究の成果



単語テストの後から、生徒のノートに新出単語以外の単語の意味が記入されるようになってきた。フレーズリーディングの導入により、多少、混乱している生徒が見受けられるが、フレーズに区切ることで、主語と動詞、熟語などに注意を払う生徒が増えた。確認テストや定期テストの結果からは内容理解に必要な語彙、文法が定着したとは言いが、語彙や文法のポイントに生徒の意識が向くようになったことはよかったと思う。

今後の授業改善の課題

フレーズリーディングの導入後、フレーズをどこで区切るかということで混乱している生徒もあり、フレーズに区切る練習を重ねる必要がある。また、区切ったものの、単語、熟語の意味を覚えていないという生徒が多く、単語と熟語の定着が大きな課題として残っている。知らない単語を意識して何度も自分で調べるということを繰り返していくように生徒の活動を工夫していきたいと思う。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-844-1221 電子メール